

チゴハヤブサ（ハヤブサ科） 全長33センチ

チゴハヤブサは自分では巣を作らず、他の鳥の空き巣を利用する変わった習性があります。20数年前から毎年我が家の近くで繁殖してきたが、毎年繁殖場所が変わることから、今年はどこに巣を構えるのか興味を持って見守ってきました。



郵便局の後ろ側に建つ無線用鉄塔。

6月になるとカラスの子育てが終わり、巣に戻ることはなくなります。こうしたカラスの空き巣はかなりの数に上ることでしょう。チゴハヤブサの子育て期間は6月頃から始まるので、空き巣を利用すれば巣を作る手間も省けるというもの。



巣の周囲を警戒する。



遠くを見据える眼は鋭い。

神宮寺郵便局の後ろ側に、約50メートルの無線用鉄塔が建っている。地元T氏個人の所有物であるが、周囲の環境から見ても特段に高層の建築物です。

昨年までは、この鉄塔を時々獲物の見張り台として使用していただけでした。今年は、中間の25メートル程の高さの踊り場でカラスの空き巣が見つかり、丁度いい物件として拝借したようです。



2016年5月13日に撮影、交尾の瞬間。



巣の中で抱卵中と思われる。

6月中旬ごろから、巣の中に入り殆ど動かなくなりました。抱卵中のようです。鉄塔のてっぺんに陣取るオスは、巣に近づく敵を見つけると徹底的に追い払います。圧倒的なスピードで、はるかに大きいトビやカラスなどを追いかけて、上から下から攻撃を加え蹴散らしました。

7月17日。巣の中の親鳥は、なにやらせわしなくなってきました。もう雛が孵化している時期に入っています。まもなく、真っ白い産毛に覆われた元気な雛の姿が見られることでしょう。



外敵が近づくと直ぐに飛び立った。